

下甌郷土館だより

◎ 薩摩藩が甌島に宣教師を招いたのは何故か？

日本にキリスト教を初めて伝えたのはイエズス会のザビエル。1549年に薩摩を訪れたが仏教の壁は厚く、日本には2年3カ月しか滞在しなかった。

それから50年後の江戸時代に入る直前、薩摩藩はフィリピンのルソン島にいたドミニコ会のスペイン人宣教師モラレスら5人を、長浜出身の船長レオン・キザエモン（喜左衛門）の案内で長浜に招いた。

幕府の目が届かない甌島で、ヨーロッパの進んだ文化の吸収と密貿易で利を得るのが目的だった。

本土に渡って布教したが、冷遇を受けて翌年には長浜に戻る。次に川内京泊に天主堂を建て布教に努めたが4年後、弾圧に遭う。後、長崎に送られて悲惨な刑に処され殉教を遂げた。

（写真は宣教師が喜左衛門に贈った十字架と名前が刻まれた石とグラス）



《ピックアップ》 沸かすのに6時間も・・・



風呂歴史は桶に水を汲んで体を洗う「行水」から始まった。

甌島では明治の初期に石風呂が使われた。沸かすのに6時間もかかったが、冷めにくいのが特徴。石は溶結凝灰岩（海中で噴火した火山灰が固まった石）で九州南部の始良カルデラなどから運ばれていた。

溶結凝灰岩は加工しやすく、かつて墓石や垣根、石臼などに多く使われていたが、風化しやすく現在ではほとんど使われていない。

この後に登場したのが「五右衛門風呂」で現在でも改良されて使われている。郷土館には両方を展示。

*** 郷土館は新型コロナウイルス感染防止のため、6月7日まで休館していますが、下記に確認してください。**

下甌郷土館（手打1031）

TEL 09969-7-0419（月・火・祭日休館）

手打地区コミュニティ協議会

TEL 09969-7-0928